

令和 7 年度 領事館交流レポート

本年度は、5月の「アメリカ領事館」での講演に続き、11月には「カナダ領事館」、1月には「ペルー総領事館」と、3つの国の代表の方々と直接交流する貴重な機会に恵まれました。ここでは、後期に行われた2つの交流の様子をご紹介します。

第 2 学年 国際理解講演会

「在名古屋カナダ領事館 領事 デイビッド・パデュー様をお迎えして」

令和 7 年 11 月 20 日(木)7限目に、第 2 学年国際理解講演会を実施し、在名古屋カナダ領事館よりデイビッド・パデュー領事をお迎えしました。

パデュー領事はカナダ・トロント出身で、大学では東アジア研究を専攻。交換留学生として早稲田大学で日本語を学ばれた後、日本の経済産業省での研修や宮崎県国富町での国際交流員としての活動など、日本との関わりを深めてこられました。2021 年 8 月より在名古屋カナダ領事館に着任し、現在も地域とカナダをつなぐ架け橋として活躍されています。

講演では、

「近くで見るとみんな違う。遠くから見るとみんな一緒」

という言葉を引用されながら、移民国家カナダが掲げる多文化主義や「モザイク文化」について、分かりやすくお話しいただきました。さらに、ご自身の経験から、

- 若い頃の挑戦が将来の大きな力になること
- 海外に出ることで世界の見え方が大きく変わること を、ユーモアを交えて語ってくださいました。

質疑応答では、附属中学 1 年生から積極的な質問があり、高校生からは「カナダの英語はイギリス英語に近いのか、アメリカ英語に近いのか」という質問がありました。パデュー領事は、

- 歴史的にはスペルはイギリス式
- 地理的には発音はアメリカ寄り
- 多文化社会ゆえに比較的聞き取りやすい英語である と丁寧に回答されました。

生徒にとって、多くの学びを得る有意義な時間となりました。



生徒の感想(一部抜粋)

2年 Tさん

「もともとカナダに興味があったが、今回の講演はとてもおもしろかった。多文化主義が政策として国を形成していることを知り、カナダへの理解が深まった。」

2年 Iさん

「多文化社会の奥深さを改めて感じた。多様な人々が互いの文化を尊重しながら暮らしているカナダについて、もっと知りたいと思った。」

第2学年 国際理解コース

「在名古屋ペルー共和国総領事館 総領事 エスピノサ・アギラール・ルイス様を訪ねて」

令和8年1月15日(木)の午後、国際理解コース2年生が名古屋・栄にある在名古屋ペルー共和国総領事館を訪問し、エスピノサ・アギラール・ルイス総領事より直接お話を伺いました。

生徒たちは事前学習でペルーの地理・文化について調べて訪問に臨みました。総領事によるスライドを交えた講話では、色鮮やかな大自然、植物や動物、伝統料理、世界的に有名な遺跡などについて詳しく学ぶことができました。

特に、

- 地球上の117生命地域のうち84地域がペルーにある
- ジャガイモは3,500種以上、サツマイモは2,000種以上

- 「世界一のレストラン」がペルーに存在するなど、生徒にとって驚きの連続でした。

また、日本とペルーの 125 年にわたる移民の歴史や、日系人の活躍、日本料理とペルー料理を融合した「フュージョン料理」についてのお話は、生徒の関心を大きく引きつけました。

さらに総領事が、在留邦人の支援や商業・文化交流のため全国各地へ足を運んでいることを知り、その情熱と使命感に生徒たちは深く感銘を受けていました。



生徒の感想(一部抜粋)

2年 国際理解コース Hさん

「自国の魅力に愛情を持ちながら、日本にも敬意を払って両国の架け橋として活動されている姿がとても素敵だと思った。前向きに仕事を楽しんでいる姿勢を尊敬する。」

2年 国際理解コース Gさん

「領事館は遠い存在だと思っていたが、訪問を通してペルーをより深く知ることができた。他の国についてももっと学びたいと思った。」

今回の 2 つの交流を通して、生徒たちは、外交の役割や多文化社会のあり方を学び、国際理解をより一層深めることができました。今後の学びにも大いに生かしていきたいと思います。

国際探究科 大谷 晓子